津田塾大学創立125周年記念事業
津田梅子生誕160年記念事業 2025年度 第25回
高校生エッセー・コンテスト

―80年前に生まれた「世界一強い女の子」―

〈長くつ下のピッピ〉が今いたならば……

©The Astrid Lindgren Company/
Ingrid Vang Nyman

『長くつ下のピッピ』は、今から80年前の1945年にスウェーデンで出版された児童文学作品です。英語、日本語など約80の言語に翻訳されています。みなさんの中には、この作品をワクワクしながら読んだ人もいることでしょう。

ピッピは9歳の女の子。両親はおらず、サルや馬と一緒に楽しく、元気に暮らしています。怪力の持ち主で、大人が眉をひそめるような言動も多いのですが、ピッピは「こうあるべき」といった常識にとらわれず、空想力豊かに、とことん自由に生きています。「天衣無縫」という言葉がぴったりなのです。

作者は、アストリッド・リンドグレーン（1907 - 2002）。子どもに愛される作品を数多く書き残しただけでなく、子どもへの暴力禁止や動物保護のために声をあげ、平和を求めるオピニオン・リーダーとしても活躍しました。

リンドグレーンの公式ホームページでは、ピッピを次のように紹介しています。

"She is a symbol of freedom, strength, kindness, courage and justice. A rebel who uses her superpowers wisely and never abuses her power. She stands up against what is wrong."

世界では、今も争いや分断が絶えません。子どもに対する虐待や教育格差なども問題となっています。みなさんの日常でも「あなたは女の子（男の子）だから」「高校生らしく」など、枠にはめられる場面はありませんか。もしも、「ピッピ」がそばにいたならば、あるいは自分がピッピのように行動できたなら、世の中が少しだけ変わるかもしれませんね。

裏面の英文やピッピについての文献や映画なども参考にして「<長くつしたのピッピ>が今いたならば……」をテーマにエッセーを書いてください。

＊https://www.astridlindgren.com/gb

募集要項

【 募集内容 】
裏面の英文やピッピについての文献や映画なども参考にして「<長くつしたのピッピ>が今いたならば……」をテーマにエッセーを書いてください。英語の場合は400words程度、日本語の場合は1000～1200字程度。エッセーにはテーマとは別に独自のタイトルもつけてください。

【 応募資格 】
高校生（国籍・学年・性別・居住地は問いません）

【 応募方法 】
所定のGoogleフォームにエッセーを記載して応募（郵送・持ち込みは不可）。

Googleフォーム
https://forms.gle/7mrV6vK72Mnt6WUs5
※Googleフォームは下書き保存ができません。Wordファイル等に下書きを作成してから所定のGoogleフォームにコピー・アンド・ペーストしてください。

【 応募期間 】
2025年8月1日（金）～9月2日（火）12：00受付締め切り

【 表　　彰 】
最優秀賞1名（賞状及び副賞5万円を贈呈）
優秀賞若干名（賞状及び副賞1万円を贈呈）
受賞者は、9月中に津田塾大学Webサイトで公表します。最優秀作品は津田塾大学において表彰し、津田塾大学広報誌『Tsuda Today』と津田塾大学Webサイトに、優秀作品は津田塾大学Webサイトに掲載・公表します。なお、応募作品の著作権はすべて津田塾大学に帰属します。

【 問合わせ 】
津田塾大学ライティングセンター　高校生エッセー・コンテスト事務局
（TEL：042-342-5142　E-mail：essaycon@tsuda.ac.jp）
https://www.tsuda.ac.jp/aboutus/essay/index.html

津田塾大学
TSUDA UNIVERSITY

Tsuda Vision 2030 ― 変革を担う、女性であること ―
弱さを、気づきに。強さを、分かち合う力に。不安を、勇気に。逆境を、創造を灯す光に。
https://www.tsuda.ac.jp/

津田塾大学Webサイトに、第1回～24回の
高校生エッセー・コンテストリーフレット等を掲載しています。

©The Astrid Lindgren Company/
Ingrid Vang Nyman

―80年前に生まれた「世界一強い女の子」―

〈長くつ下のピッピ〉が今いたならば……

ニンジン色の髪を左右にきつく編んだ、そばかすだらけの顔のピッピ。着ているワンピースはお手製の風変わりなもので、肩にサルのHerr Nilsson（ニルソン氏）を乗せて歩きます。

.....On her long thin legs she wore long stockings, one brown and the other black. And she had a pair of black shoes which were just twice as long as her feet. Her father had bought them in South America so she would have something to grow into, and Pippi never wanted any others.

The thing that made Tommy and Annika open their eyes widest was the monkey which sat on the strange girl's shoulder. It was little and long-tailed, and dressed in blue trousers, yellow jacket, and a white straw hat.

Pippi went on down the street, walking with one foot on the pavement and the other in the gutter. Tommy and Annika watched her until she was out of sight. In a moment she returned, walking backwards. This was so she shouldn't have to take the trouble to turn round when she went home. When she came level with Tommy and Annika's gate, she stopped. The children looked at each other in silence. At last Tommy said, "Why are you walking backwards?"

"Why am I walking backwards?" said Pippi. "This is a free country, isn't it? Can't I walk as I please！"

（英文は講談社英語文庫、アストリッド・リンドグレーン・著／和地あつを・絵
『長くつしたのピッピ *Pippi Longstocking*』講談社インターナショナル、1999年より引用、pp.12–14）

ピッピは、自分を施設に入れようとするおまわりさんと鬼ごっこをしたり、泥棒とポルカを踊ったりします。学校では「7たす5はいくつになるかしら?」と尋ねる先生に、こう言います。

"Well, if *you* don't know, don't think I'm going to work it out for you！"
（同書、p.49より）

サーカスでは世界一の力もち、と宣伝されている男の人に勝負を挑みます。
"But you could *never* do it," said Annika. "Why, that's the strongest man in the world！"
"Man, yes," said Pippi, "But I'm the strongest *girl* in the world, don't forget."
（同書、p.99より）

ピッピはおもしろい遊びを次々と考え、決して退屈しません。「おかしい」と思うことには口をつぐまず、人々の偏見や思い込みに対しては別の見方があることを、荒唐無稽と思えるようなお話から示唆するのです。

ピッピや著者リンドグレーンに関しては、様々な書籍や記事、作品が出ています。ぜひいろいろ調べてみてください。

津田塾大学創立125周年記念事業
津田梅子生誕160年記念事業 2025年度 第25回
高校生エッセー・コンテスト

募集要項および応募方法の詳細については津田塾大学Webサイトをご覧ください。
https://www.tsuda.ac.jp/aboutus/essay/index.html